



千葉総局
〒260-0013
千葉市中央区中央
4-17-3
電話 043-225-2171
FAX 043-226-1782
chiba@sankei.co.jp
広告 043-202-8600

購読申し込み・
配達・集金
0120-34-4646
紙面・記事
0570-046460

Web
https://www.sankei.com/
region/

8pの1st

(7日)
旧4月7日
《仏滅》

月齢	6.3
日出	4:39
日入	18:28
月入	9:05
満潮	6:57
干潮	21:59
満潮	1:49
干潮	14:41

小潮 (千葉)

新型コロナウイルス
千葉県の電話相談窓口

0570-200-139

24時間対応
土日祝日も含む

ちば森づくりの会理事長 林隆通さん(71)

森は、人が整備することで、同じ場所とは思えないほど様子が変わるといふ。生い茂った草木に日の光が遮られ、暗くじめじめとした森でも、枝打ちや間伐、倒れている木の除去などを行うことで、それぞれの木や下草に温かい光が注がれるようになるのだ。

今はその変わりよさを直接、現場で見ることがない。副理事長の平島知彦さん(69)ら、仲間を送ってもらった画像をスマートフォンで確認し、目を細める。

平成28年6月、理事長を務めるNPO法人「ちば森づくりの会」(千葉市)のボランティア活動で、市内の森で倒木処理をしていた。その時、折れた幹が肩から腰を直撃。腰椎損傷の大けがを負い、車いす生活となった。

森林での作業が大好きだっただけに、「もう、現場には出られないかもしれない」と絶望したが、不思議と、会をやめようという考えには至らなかったという。ともに会を引っ張ってきた平島さんに、「事務局ならできるから」と告げた。森林の方向性を決めるほか、市や森林組合、山主とのやり取りで整備計画を立案。経理もを行い、現場で整備を行う会員を支える。体に障害が残るほどの大けがも、「荒れ果てた森林を蘇らせたい」という信念を揺るがせることはなかった。

大けがしても信念揺るがず

区。森の中にあるログハウスの前に約20人の会員が集まった。ミーティングでは、「安全が何よりも優先します。年度末まで事故がないようにしましょう」と呼び掛けた。重みのある言葉に身を引き締めた会員は、その日のそれぞれの作業場所に向かった。自らは森林整備で出た木材を使って、スマートフォンを立てる台などを作る作業に熱中した。

「若い会員が増えており、心強い」と語る林隆通さん



Face ちば人物記

はやし・たかみち NPO法人「ちば森づくりの会」理事長。日大卒。昭和48年から平成23年まで東京国税局に勤務。50歳を過ぎた頃、森林ボランティアの技術研修会に参加し、森林整備の楽しさに目覚める。13年、研修の受講者で設立した「千葉市森林づくりの会」に参加。会は17年にNPO法人となり、現在の名称となった。20年に理事、25年9月から現職。長野県小諸市出身。

森と自らの健康のために!

NPO法人「ちば森づくりの会」(千葉市)の活動は、無償ボランティアである会員によって行われている。健全な森林の育成に汗をかくことで、ボランティアとしてのやりがいを実感できるといい、「森と自らの健康のために!」を合言葉に会員を募集している。

主な活動は植栽や下刈り、除間伐、伐採、竹林改良、荒廃林の再生で、間伐材利用の木工製品の作製や炭焼き、キノコ栽培なども行う。定例活動日は、毎月第1~4土曜と第1水曜の月5回で、午前9時からミーティングを行った後、その日の作業場所に向かう。拠点は千葉市若葉区のログハウスで、チェーンソーや刈払機、ウインチなどの



枯れた木を切り倒す「ちば森づくりの会」のメンバー。千葉市若葉区

機材を保有している。会員数は78人で、定例活動日は20人超が参加することが多いという。ボランティア保険への加入などのため、継続的な活動は入会が前提となるが、体験参加は随時受け入れているという。入会金はなく、年会費は1000円。

市が指定した里山地区だけでなく、所有者だけでは管理できない民有林についても、市森林組合から情報を得て活動の対象にしているのが特徴。

市内の森林のほとんどは民有林で、本質的な森林の再生には民有林の整備が不可欠だという。

る。だが、「社会的な使命以上に、達成感を楽しんでいる」と、あくまで自然体だ。

「やれる範囲は知れている。それでも、『市民参加の森づくり』の場を提供し続けたい」とほほ笑んでしまう」と警鐘を鳴らす。5千だ。(高橋寛次、写真も)